

ぶれない思いのもと、一人ひとりと共に歩む姿勢を貫く 製造業・物流業を得意とする経営コンサルタント

株式会社 技術経営フロンティア

愛知県名古屋市中区錦 1-5-11 名古屋伊藤忠ビル 4階
東京都中央区銀座 7-13-6 サガミビル 2階
大阪府大阪市北区梅田 2-5-13 桜橋第一ビル 304号
URL : <http://ve-mot.com>

『技術経営フロンティア』の小林社長は、製造業・物流業を顧客層にした多様なコンサルティングを手掛ける経営者だ。培った知見を駆使しながらも、関わる事業経営者や社員など「人の気持ち」を何よりも大事に、工場全体の生産性向上に関するコンサルティングなどを行っている。本日は、事業を通じて多くの企業を支えている社長に、タレントの板東英二氏がインタビューを行った。



代表取締役
小林 達哉

—はじめに、『技術経営フロンティア』さんの事業内容からお聞かせ下さい。

中小企業経営に関する研究事業及び、経営コンサルティング事業を手掛けております。研究事業では、製造業・物流業における中小企業経営を主な研究領域としており、経営管理の理論と実務についての調査・研究・報告を行っております。経営コンサルティング事業でも、前述の事業を営む中小企業を主な顧客とし、ビジネス・コンサルティングやビジネス・セミナーの企画運営を手掛けています。

中小製造業・物流業のビジネス革新を支援する、経営管理技術の専門企業が当社ですね。生産や物流をはじめ、人的資源、経営戦略の視点から工場経営を多角的に分析し、工場全体の生産性を向上させる一助などになっております。

—経営に関する小林社長の造詣が窺えますが、社長は昔からそうした経営コンサルタントを目指して歩んでこられたのですか。

いえ、キャリアを積む中で自身の進むべき道を見出した次第です。私は十代半

ばで社会に出て、車が好きだったこともあって長距離トラックの運転手をしていた時期がありました。そうして日々の業務に勤しむ中、景況の悪化から悩まれる様々な企業の社長や社員の方々を見るようになりまして、見ているだけで何もできない自分に嫌気が差したのです。そこで、「もっと多くの人の役に立つ仕事を」との思いから一念発起し、経営コンサルティングを学ぶべく大学へ入学しました。それが30歳くらいのことですね。

—30歳で大きなチャレンジに踏み切られましたね。卒業後はその道に進まれたのでしょうか。

ええ。工場でのコンサルティングを希望していたことから、ご縁のあった工場に就職。現場仕事に従事して幅広い学びを得て、その後徐々に色々な仕事を任せさせていただくようになり、「コンサルタントと現場」双方の目線に立って考える視点など、今に生きる経験とスキルを多く積ませていただきました。そしてさらに見聞を広めようと、社会人が通える大学院に入って知見を深めました。当時は、

「流石に大学院ではついていけないかな」という不安もあったのですが、思ったより私の経験と知識が評価されたのですよ。—実地で知見を深めてこられましたから、その差が大きかったのでしょうか。それから独立起業を果たされて？

はい。4年前の創業当初は多くの苦勞もありましたが、初心である「多くの人々のために」との思いを胸に邁進。その努力が報われたのか、徐々に仕事をいただけるようになりまして、今では堅実に歩めております。この先も自身が培ってきた全てを活かして、工場経営で悩まれている方がいれば、その改善・向上の一助になりたいと考えています。そのためなら身を粉にして励む覚悟はできていますし、全国どこへでも赴く所存です。そしてクライアントの現場スタッフと一つとなり、共にモチベーションを高く持って現状を変えていきたい—。理想論を語るだけでなく、周囲に働きかけることを意識しながら励み、皆にとって良い結果につながるよう尽力していきます！

(取材 / 2018年5月)



ゲスト 板東 英二

「知識だけでは人は動かない」という小林社長の言葉が印象に残っています。経営に関して深い知見をお持ちですが、社長は理論より先に、「働く人たちの気持ち」を優先しておられます。そのように寄り添ってくれるプレーンなら心から信頼できますよね」

